

選定にあたってのご注意

使用環境

- 3M™ ダイノック™ フィルムは原則として内装用途にお使いください。屋外で使用する場合、3M™ ダイノック™ フィルム EXシリーズまたは、色柄見本の★印(お日様マーク)のついた品番の製品からお選びください。
- 軒下や軒天は屋外ですので、EXシリーズ、もしくは★印のついた品番をご使用ください。
- 屋内であっても日光の影響を受ける場合は、EXシリーズもしくは★印のついた品番を選定してください。
- 浴室やトイレ等、水廻りへの施工は、抗菌、防カビ仕様の3M™ ダイノック™ フィルム NEOシリーズをお勧めします。
- 常時50℃以上となる場所や、一時的に60℃を超えるような環境、水中・湿度が高い場所への施工は避けてください。下地側から水分の影響を受けると施工後膨れや剥がれ、変色が発生する場合があります。

屋外での使用

- 3M™ ダイノック™ フィルム EXシリーズは、屋外の垂直面で約10年の耐候性を有する製品です。アルミニウム下地を推奨し、屋外の様々な用途でご使用いただけます。選定・施工にあたっての注意事項はP.14を参照ください。
- ★印の品番は垂直面に使用した場合、色の褪せ、変色について3~5年の耐候性を有します。
- 傾斜面や水平面に使用した場合の耐候年数は、垂直面の場合よりも短くなります。
- ★印の製品は、屋外に面した塩ビ鋼板下地に使用すると変色する場合がありますので、使用しないでください。★印の製品は塩ビ鋼板下地に使用しても変色の心配はありません。
- 耐候性は使用環境などの影響を受けます。耐候年数を保証するものではありません。
- 端部または貼り付け基材側から水分が入り込むと、接着不良を起こす恐れがあります。金属等の含水しない下地を選択してください。水平面など継続して表面に水が溜まる部位や形状では、短い期間で劣化が進む場合があります。
- 木やケイ酸カルシウム板、石膏ボード、スレート等窯業系などの含水する下地では、施工後膨れや剥がれ、変色が発生する場合がありますので使用しないでください。
- 記載する情報は参考情報であり、保証するものではありません。

玄関ドアへの貼り付け

- 屋外に面したドアへの施工は、玄関ドア専用が開発された3M™ ダイノック™ フィルム DRシリーズをお勧めします。

下地の色

- 製品によっては、下地の色が透け意匠に影響を与える場合がありますので、ご使用の際には十分ご注意ください。

製品仕様

- カタログ掲載のチップサイズでは、全体の仕上がりがイメージと異なる場合があります。サンプルを別途ご請求の上ご確認ください。特に大柄のものは、色柄や突き合わせができるかなどを含めて、当社Webサイトに掲載の画像データなどでご確認ください。
- 製造上の理由により柄・エンボス柄のピッチが多少ずれる場合があります。突き合わせ貼りを行う際は柄合わせが難しいので、事前に柄合わせのずれが

許容できるか確認してください。

- 特に反射光により突き合わせ部の左右の色が異なって見えることがあります。
- 横柄、大柄、抽象柄のものは、突き合わせ部の柄が一致せず連続したように見えません。
- 事前に突き合わせ部の見え方を大判サンプルなどで確認の上、製品をご選定ください。必要に応じて、突き合わせ貼りを避け、目透かし貼りや目地棒のご使用を検討してください。
- 3M™ ダイノック™ フィルムは、製品改良等のため予告なく仕様を変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 製品によっては、その他の詳細な注意を製品説明書および取扱説明書でご用意しているものがあります。当社Webサイトに掲載していますので、ご確認ください(go.3M.com/dinoc/product-information)。

下地基材適合表

- 表の記載は、下地表面が平滑もしくは平滑に処理されていることが前提です。下地の表面が平滑でない場合、不陸などが目立つ場合があります。
- 特に、フィルムがメタリック調の製品や光沢の高い製品、表面が平滑な製品は、基材の不陸や刷毛むら、接着剤由来の表面のゆらぎが目立つ場合があります。
- P.11-16「シリーズ別選定・施工にあたってのご注意」もあわせてご確認ください。

○ 接着力および外観に関し問題のないもの

△ 接着力は問題ないが、下地の不陸が目立ちやすいもの

▲ 接着不良または外観不良を起こす可能性があるもの

下地基材		3M™ ダイノック™ フィルム全般 (右記表を除く※1)	CA, LW, ME, MW, PA, WG-GN, TE, RS, BW, ET, CH	AM, VM, HG, VM-MT
木材	シナベニヤ	○	△	△
	ラワンベニヤ	○	△	△
	パーティクルボード	○	△	▲
無機系 ボード類	MDF	○	△	▲
	石膏ボード	○	△	△
	火山性ガラス質積層板 ケイ酸カルシウム板	○	△	△
モルタル	○	△	▲	
鋼板類	焼付塗装鋼板	○	○	○
	電気亜鉛めっき鋼板	○	○	○
	塩ビ鋼板	○	△	△
	アルミニウム	○	○	○
	ステンレス	○	○	○
重ね貼り	○	△	△	
化粧板	メラミン化粧板	○	○	▲
	ポリエステル化粧板	○※2	○※2	▲
ガラス	ガラス	○※3	○※3	○※3
	表面がガラス質 (ただし、表面が平滑なもの)	○※3	○※3	○※3
プラスチック	人工大理石	○	○	▲
	アクリル	○※2	○※2	▲
	ABS	○※2	○※2	▲
	硬質塩ビ	○	○	○

以下の下地に貼付した場合、接着不良を起こしますので使用しないでください。
木材の集成材、無垢材、銅、真ちゅう、鉛、錫、軟質塩ビ、ポリカーボネイト、ポリオレフィン、ポリエチレン(PE)、ポリプロピレン(PP)、ナイロン、フッ素樹脂、ゴム類、シーリング剤、コンクリート

※1 EX、ホワイトボード(WH、PWF)、NEO、DR、DGシリーズおよびDPFの機能製品(Functional Products)については、取扱説明書を参照ください。

※2 アウトガスによって膨れが生じる可能性がありますのでご注意ください。

※3 ガラスへの施工時の注意事項は P.8 ページ下部に記載の(注7)をご覧ください。

メンテナンス・清掃方法

- 付着した汚れはすみやかに除去してください。
- 日常の清掃は水拭きもしくは市販の中性洗剤をご使用ください(3M™ ダイノック™ フィルム ホワイトボードシリーズは洗剤のご使用を避け、水拭きのみとしてください)。但し、水拭きの際、布巾やスポンジについていた汚れや水含有のカルキがフィルム表面に残留し、濃色柄では白濁して見える場合があります。清潔な布巾やスポンジを使用し、水拭き後に水分を残さないようしっかり拭き取ってください。粗いエンボス製品で凹部に汚れやカルキが残留し除去が困難な場合は、水をつけた細い毛先のブラシでやさしく掻き出してください。硬いブラシで強く擦ると、光沢が変わったり傷が付くのでご注意ください。

- 落ちにくい汚れは3M™ クリーナー20もしくはイソプロピルアルコール、スコッチ・ブライト™ シャープシューター™をご使用ください。但し、ARシリーズ、ホワイトボードシリーズ、抗ウイルス・抗菌シリーズでのご使用は避けてください。
- 強アルカリ性洗剤、強酸性洗剤、またはシンナー等の有機溶剤のご使用はお勧めしません。特に、ARシリーズ、MTシリーズ、抗ウイルス・抗菌シリーズ及びホワイトボードシリーズでは外観や性能が変化する場合があります。
- 清掃は柔らかい布、スポンジ等をご使用ください。研磨剤の入ったスポンジは絶対に使用しないでください。清掃後、フィルム表面に残った洗浄剤は水拭きできれいに除去してください。
- 消毒薬のご使用に関しては、P.21「消毒薬の使用ガイドライン」を参照してください。

施工にあたってのご注意

施工温度範囲：12℃～38℃

- 低温時には、温風ヒーターなどを使用して、下地基材や3M™ ダイノック™ フィルムの温度を上げてください。温度が低いと接着不良が生じたり、施工後にフィルムが膨れたりする場合があります。
- 角Rにフィルムを折り曲げて貼った場合、製品によって角R部分が白くなる場合があります。貼る際にはドライヤーで温めながら貼るか、貼った後に温めてください。
- 低温時にはフィルムが裂けやすくなりますので、カットする際の取扱いにはご注意ください。
- 高温時にはフィルムがより柔軟になり、施工しにくくなる場合があります。

照明

- 必要に応じて投光機などを使用して、明るい場所で施工してください。照明が暗い場合、下地基材とフィルムとの間の異物混入や気泡を見逃す恐れがあります。

施工環境

- ほこり、ちりなどが少ない場所で行ってください。施工する面のみでなく、床の清掃を行ってから施工してください。
- 空気が乾燥して静電気が発生しやすい場合は、床に霧吹きなどで水を吹きかけてください。
- 内装工事など定常的に多くのほこりや微粒子などが発生する環境下においては汚れにご注意ください。表面のエンボスに汚れが詰まってしまい清掃が困難な場合があります(表面の微細な構造の特性上、CHシリーズ、VMシリーズなどでは特にご注意ください)。

塩ビ鋼板製ドアへの貼り付け

- 特に屋外に面した塩ビ鋼板製ドアに貼る場合、3M™ プライマー DP-900N3を全面塗布しDRシリーズを施工してください。
- エンボスの深い塩ビ鋼板に貼る場合、接着面積が少なくなるのでサンディングを行うなど下地処理にご注意ください。

テープなどを貼る場合

- 粘着テープ、養生テープなどをフィルム表面に長時間貼ったままにしないでください。テープの粘着剤が3M™ ダイノック™ フィルムの塩ビに含まれる可塑剤の移行により軟化し、べた付いて、きれいに剥がせなくなる場合があります。

ゴムと接触する場合

- カウンター、天板、トイレブース、扉などの用途にフィルムを使用した場合、機器の足や戸当りのゴムなどが長時間接触すると、ゴムの材質によってはフィルムが変質する恐れがあります。

荷重が掛からないように

- 施工後のフィルムに力が常時加えられる場合、フィルムにシワが発生する場合がありますので、フィルムに力が加わらないようにしてください。特にドアノブ周りにフィルムを貼り付ける場合はご注意ください。施工後のフィルムをヘアードライヤーなどで温めて、接着力を上げるようにするとシワの発生を軽減できる場合があります。

重ね貼り

- 重ね貼りした場合、不燃材料とはなりません。

- 必ずフィルム表面に3M™ プライマー DP-900N3を塗り、十分に乾燥してから貼ってください。
- ARシリーズ、SRシリーズ、EXシリーズの上に重ね貼りする場合、サンドペーパーでフィルム表面をサンディングしてから、3M™ プライマー DP-900N3を塗布してください。
- エンボス、機能製品によっては重ね貼りにくいものがありますので、P.11～15「シリーズ別 選定・施工にあたってのご注意」を参照してください。

方向性

- フィルムは、裏面剥離紙ロゴを同じ方向に合わせて貼り付けするのが標準です。フィルムの裁断位置により突き合わせ部の左右の色の濃さが極端に異なる場合がありますので、裁断位置や貼る方向にご注意ください。なお、エンボスには微妙な方向性があります。逆方向に貼ると光線の加減で色違いに見える場合がありますのでご注意ください。
- 施工の際は、裏面剥離紙ロゴにより柄の天地方向を確認してください。
- フィルムは、製造工程で厳重な品質管理を行っていますが、ロットにより多少の差異が生じることがありますので、異なったロットを同じ面に使用しないでください。対応する縦柄、横柄の製品もロットが異なりますので多少の色の差異が生じることがあります。
- フィルムは、ロールの途中にスプライス(つなぎ目)が入る場合があります。

フィルムの繋ぎ

- フィルムを繋いで施工する方法は、突き合わせする方法と重ねる方法があります。重ね貼りできない品番では突き合わせてください。繋いで施工する方法について事前に打ち合わせのうえ施工してください。
- 突き合わせ貼りした場合、施工後に隙間が生じる場合があります。特に濃色フィルムの場合は隙間が目立つことがありますので、フィルム施工に先立って突き合わせとなる部分の下地にフィルムと同系色の色を塗っておくことをお勧めします。隙間の発生を軽減させるために、突き合わせ部の下地基材にはプライマーを2度、または3度塗ってください。また、フィルムを重ね裁ちする際、下地基材を切らないようにご注意ください。
- 左右の色や柄およびエンボス柄が異なって見えることや、ピッチのずれが目立つ場合があります。同一ロットをご使用の上、必要に応じて突き合せ貼りを避け、目透かし貼りや目地棒の使用を検討してください。

全般的な取り扱い注意事項

- ロールからフィルムをカットしたり、巻き直したりする際、フィルム表面に傷がつかないように、作業台に低摩耗性のテープを貼ったり床を養生するなどしてください。
- ロールからフィルムを巻きだして平面状にすると、剥離紙とフィルムが剥がれることがありますのでご注意ください。裁断の目安として裏紙に罫線がありますが、製造上の理由により多少ずれる場合があります。必要な寸法より40~50mmは大きく裁断してください。

- 裁断後のフィルムの一時的保管は、ロール状にして端部をテープで止めて立ててください。裁断したフィルムは引きずらず、表面を直接床につけないでください。表面に傷が付き、破損する恐れがあります。
- 剥離紙や端材などを床に放置しないでください。踏んだ場合、転倒する恐れがあります。

施工後の注意事項

- 接着力は施工してから徐々に上昇し、3~7日で最大強度に到達します。
- 端材などを廃棄する場合は、『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』に従い、許可を受けた産業廃棄物業者に処分を委託してください。

剥離方法

3M™ ダイノック™ フィルムは貼り付け後、時間が経過するに従って剥がしにくくなります。剥離する必要がある場合は以下の手順で行ってください。

剥離時の注意事項

- 剥がさずに上から重ねてフィルムを貼ると、不燃材料になりませんのでご注意ください。
- 石膏ボード、ケイ酸カルシウム板、ベニヤ板等の下地に貼ったフィルムは、下地を傷つけずに剥離することはできません。上記以外の下地でも下地を痛める場合があります。
- 塗布したプライマーの跡が残ります。

剥離手順

- ①下地を傷めないように注意しながら、フィルムに20cm程度の間隔で切れ目を入れてください。
- ②ヘアードライヤー等でフィルムを温め、軟化させてください。
- ③切れ目を入れたフィルムを短冊状に剥がしていきましょう。
- ④剥がした後、下地に粘着剤が残る場合があります。残った粘着剤は3M™ クリーナー20、3M™ クリーナー30、もしくはシンナー等を使用して取り除いてください。取り除いた後も、下地によっては貼り跡が残る場合があります。

保管・輸送にあたってのご注意

- 製品の保管・輸送の際にはカートン(フィルムロール梱包箱)のラベル側を揃えて積み重ねてください。その際は、6段以上積み重ねたり、パレットの2段積みをしてしないでください。
- 輸送の際には、カートンを落とさないでください。端部が割れることがあります。
- 製品の保管は、直射日光や高湿度な環境下を避け、周囲温度38℃以下の清潔な場所に保管し、購入後1年以内に使用してください。
- 使用後、残ったフィルムを保管する際には購入時と同様の梱包形態にし、必ずフィルムの緩みがないように手で巻きを締めたのちテープ止めて、フィルムの巻きが緩んでこないように注意して上記条件にて保管してください。フィルムを緩めて保管しておきますと、剥離紙とフィルムに剥離が発生する場合があります。